



天の川に短冊と願いごと。昨日は七夕でした。教室には笹につるされた願いごとを書いた短冊も用意されました。みなさんの願いごとが実現するといいですね。さて、七夕の話というと・・・

夜空に浮かぶ天の川の近くに、神さまが住んでいました。神さまには織姫という名前の娘がいました。彼女は着物を織る仕事をしている美しい女性。神さまの自慢の娘でした。織姫が年頃になったので、神さまは織姫の夫となる男性を探し、天の川の岸で牛飼いをしている彦星と織姫を引き合わせました。

彦星は働き者のしっかりした男性。二人はひと目で恋に落ち、あっという間に結婚します。ところが、二人の仲が良すぎて、いっしょに遊んでばかりで仕事をしなくなってしまいました。おこった神さまは2人を天の川の東西に引き離し、織姫と彦星は離れ離れになってしまいます。

織姫は悲しみのあまり泣いてばかり。娘のそんな姿を見た神さまは、かわいそうに思い、一年に一度、7月7日の夜にだけは彦星と会うことを許します。

それから2人はその日を待ちわびながら、いっしょけんめい働くようになりました。しかし、ようやく二人が会える7月7日に天の川の水かさが上がって、織姫は川を渡ることができません。そこに、どこからともなく鳥が現れて、天の川に橋をかけてくれました。今でも、織姫と彦星は毎年その橋を渡って、一年に一度だけ再会しているのです。



織姫と彦星の美しくもはかない物語は、とてもロマンチックで、思わず聞き入ってしまうものですね。ところが、昨夜はあいにくの雨模様。残念ながらきれいな星空は見ることはできません。こんな日に雨を降らす雨男はだれや！

この夕	降りくる雨は	彦星の
	早漕ぐ舟の	櫂の散りかも
(このゆうべ	ふりくるあめは	ひこぼしの
	はやこぐふねの	かいのちりかも)



七夕に降る雨を「<sup>かい</sup>櫂のしずく」ともいいます。彦星が織姫のもとへと、天の川を急いで渡るためにその舟の櫂からこぼれおちた雫が昨夜の雨だとか・・・なるほど、そう考えると雨もまた風情があっていいものです。